

各地からサクラ開花の便りが届く季節となりました。春の訪れは、年ごとに少しずつ表情を変えながらも、確かに私たちのもとへやってきます。文京区内でも、ようやく開花の兆しが見られるようになり、小石川の街にも春の気配が広がり始めました。小石川の桜並木を歩くと、まだ全体としてはつぼみの状態でありながら、一本の木に数輪だけ、控えめに花を開かせている様子が見られます。その姿はどこか初々しく、本格的な満開の華やかさとはまた異なる、静かな美しさを感じさせます。冷たい空気の中に、確かに春が入り込んできたことを知らせる、いわば「春の第一報」です。

この桜並木は、もともと「環状3号線」という都市計画の一部として整備が進められていた場所でした。外堀通りと不忍通りを結ぶ東京環状線構想の中で、「環三通り」とも呼ばれていた歴史があります。しかし計画は中止され、その結果として広い空間が残され、現在のような桜並木へと姿を変えました。

特徴的なのは、道路の両脇だけでなく、中央分離帯の遊歩道にも桜が植えられている点です。歩行者は桜に囲まれるようにして歩くことができ、都内でも屈指の贅沢な花見空間が広がっています。もし都市計画がそのまま実現していたなら、この風景は存在しなかったでしょう。都市の計画変更が、結果として美しい景観を生み出した好例ともいえるこの場所は、今では多くの人々に親しまれる桜の名所となっています。やがて満開を迎える日が来れば、この並木道は一面の淡い色に包まれ、春の喜びを静かに語りかけてくれることでしょう。

(2026年3月中旬／文京区小石川)

